

# 大路川 流域治水 ビジョン

～ 地域のみなんで取り組む「流域治水」～



令和6年5月撮影

改訂版(令和7年3月)  
大路川流域治水協議会

## ① 目次(本編)

### ① 概要

- ①-1 はじめに……………P1
- ①-2 大路川流域治水ビジョンの概要……………P2
- ①-3 主な取組事例……………P2

### ② 流域治水の必要性

- ②-1 気候変動等による災害激甚化……………P3
- ②-2 地域のみんなで取り組む「流域治水」…P4

### ③ 避難時の備え

- ③-1 地元住民の取組……………P5
- ③-2 日頃からできること……………P6

### ④ これから目指す姿(ビジョン)

…P7,8

### ⑤ あとがき

…P9

(資料編)

---

P10以降に詳細な資料をまとめた「資料編」を掲載しています。  
是非ご覧ください。

# ① 概要

## ①-1 はじめに

山陰地方では、「弁当忘れても傘忘れるな」の言葉どおり、古くから雨が多い地域と言い伝えられています。また近年は、地球温暖化による気候変動に伴い、毎年のように全国のどこかで甚大な浸水被害が発生しています。

大路川流域では、昭和54年10月の台風第20号をはじめとする豪雨により、多くの浸水被害を受けてきました。これらの水害に対して、河川改修計画を策定し、「大路川流域治水協議会」等で地域住民の方々と行政で意見交換しながら整備を進めてきました。

引き続き、河川整備は進めていきますが、今後の気候変動を加味すると、河川整備だけで河川の氾濫を防ぐことには限界があり、プラス $\alpha$ の氾濫対策を考えていく必要があります。また、一人一人が災害を自分事として捉えて“自分はいつどこにどうやって避難するのか”を考えておかなければなりません。

これらを背景に、流域8地区の住民の方々と行政が連携して治水対策に取り組むべく、令和3年5月に「大路川流域治水協議会」を設立し、河川の氾濫を少しでも防ぐために何ができるのかを検討し、できることから取り組む「流域治水」を始めています。

この「大路川流域治水ビジョン」は、流域においてこれまで取組んできた治水対策と今後の流域治水の方向性を、流域8地区の住民の方々と行政が協働でとりまとめたものです。このビジョンにより、大路川流域での流域治水の取組の深化とともに、県全体へ流域治水が展開していくことを目指しています。

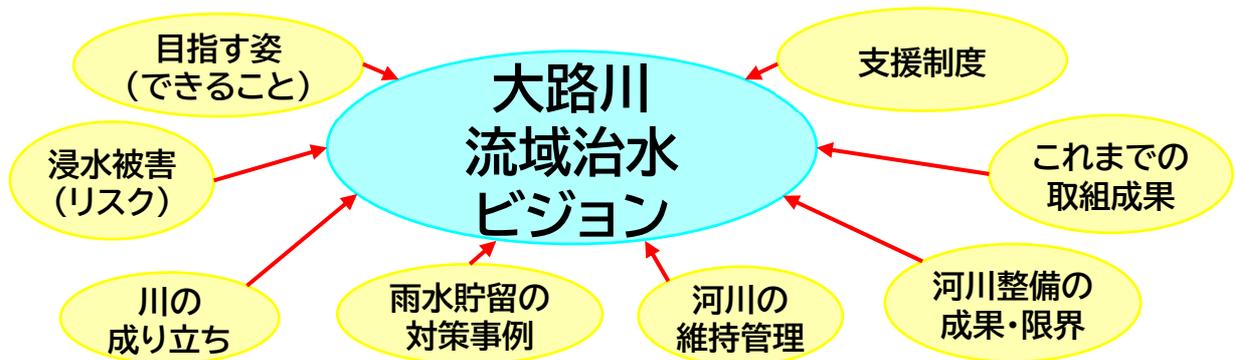
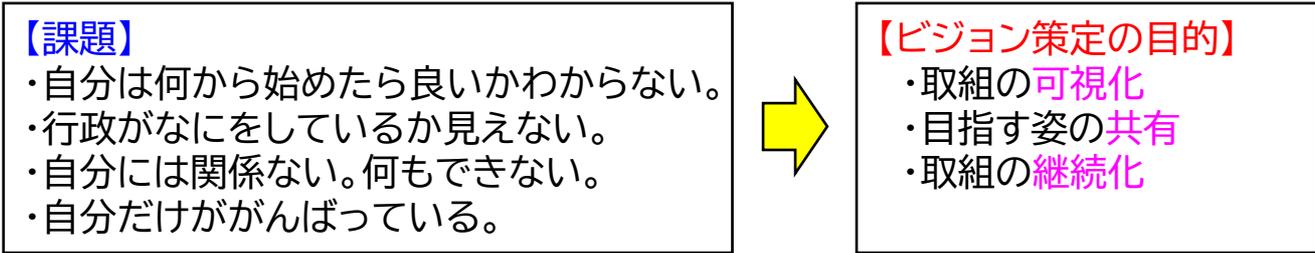


# ①-2 大路川流域治水ビジョンの概要

水害に強い地域づくりを実現するため、流域のあらゆる関係者が同じ方向を向き、取組を進めることが重要です。

「大路川流域治水ビジョン」は「これまでの成果」と「目指す姿(これからの取り組み)」をとりまとめ、関係者で共有することで「みんなで」同じ方向を向き、流域治水のさらなる推進を図るものです。

今後は、本ビジョンをもとに大路川流域での取組を継続して進め、さらに全県各地で取り組む場合の先進的な事例として、全県展開していきます。



# ①-3 主な取組事例



防災学習



河川整備の推進  
コミュニケーション  
(意見交換会・協議会)



情報発信



田んぼダム



避難訓練



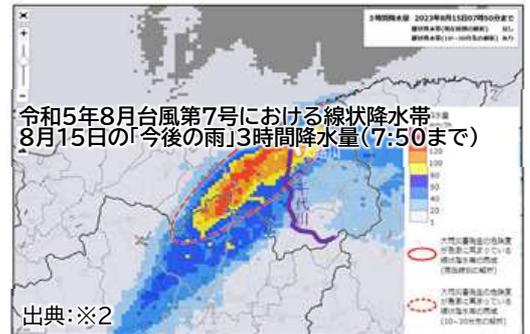
雨水貯留タンク

# ② 流域治水の必要性

## ②-1 気候変動等による災害激甚化

近年、地球温暖化による気候変動により、広域かつ計画をはるかに上回る規模の豪雨で堤防の決壊等の被害が全国的に発生しています。

本県も、令和5年8月15日、台風第7号の影響により鳥取県と岡山県に線状降水帯が発生し、鳥取市佐治町で日降雨量が観測史上1位となる515mmを記録するなど、多くの被害が発生しました。



- ※1 出典:【岡山県危機管理課】提供写真
- ※2 出典:【大阪管区気象台】「令和5年台風第7号による大雨と暴風雨について(近畿、中国、四国地方の気象速報)」
- ※3 出典:【国土交通省HP】行徳水位観測所地点(8/15 18時)

将来的な線状降水帯の発生頻度は、気候予測シミュレーション結果より、地球全体の平均気温が18世紀半ば(産業革命以降)より2℃上昇した気候では、およそ1.3倍、4℃上昇した気候では、およそ1.6倍になると予測されています。

鳥取県でも、平均気温の上昇により、激しい雨(1時間降水量50mm以上)の降る回数が、2℃上昇した気候では約2.4倍、4℃上昇した気候では約3.4倍に増加します。

※ 21世紀末(2076～年の平均)の予測を20世紀末(1980～1999年の平均)と比較したものです。

気温の変化		雨の変化	
鳥取県の年平均気温は約 <b>4.3℃</b> 上昇します		中国地方に降る非常に激しい雨※1の回数は、約 <b>3.4倍</b> に増加します	
猛暑日数	約 <b>24日</b> 増加 ↑	※1: 1時間降水量50mm以上	
真夏日数	約 <b>55日</b> 増加 ↑	日降水量200mm以上の回数	約 <b>3.2倍</b> に増加 ↑
熱帯夜数	約 <b>53日</b> 増加 ↑	年最大日降水量※2	約 <b>1.3倍</b> に増加 ↑
冬日数	約 <b>38日</b> 減少 ↓	無降水日数	約 <b>12日</b> 増加 ↑
猛暑日: 日最高気温35℃以上		※2: 1年で最も多くの雨が降った日の降水量	
真夏日: 日最高気温30℃以上		大雨や短時間強雨は発生数が少ないため、地域単位での予測は不確実性が大きいことに注意が必要です。	
熱帯夜: 日最低気温25℃以上			
冬日: 日最低気温0℃未満			

鳥取県の気候変化(4℃上昇シナリオ)

気温の変化		雨の変化	
鳥取県の年平均気温は約 <b>1.4℃</b> 上昇します		中国地方に降る非常に激しい雨※1の回数は、約 <b>2.4倍</b> に増加します	
猛暑日数	約 <b>4日</b> 増加 ↑	※1: 1時間降水量50mm以上	
真夏日数	約 <b>16日</b> 増加 ↑	日降水量200mm以上の回数	約 <b>2.3倍</b> に増加 ↑
熱帯夜数	約 <b>13日</b> 増加 ↑	年最大日降水量※2	約 <b>1.2倍</b> に増加 ↑
冬日数	約 <b>18日</b> 減少 ↓	無降水日数	有意な変化なし
猛暑日: 日最高気温35℃以上		※2: 1年で最も多くの雨が降った日の降水量	
真夏日: 日最高気温30℃以上		大雨や短時間強雨は発生数が少ないため、地域単位での予測は不確実性が大きいことに注意が必要です。	
熱帯夜: 日最低気温25℃以上			
冬日: 日最低気温0℃未満			

鳥取県の気候変化(2℃上昇シナリオ)

出典:【鳥取地方気象台】「鳥取県の気候変動 令和4年3月」

## ②-2 地域みんなで取り組む「流域治水」

地球温暖化による気候変動に伴い水害が激甚化・頻発化を踏まえると、堤防などの河川整備をより一層加速することは必要です。しかし、その機能には限界があることから、集水域(雨水が河川に流入する地域)から氾濫域(河川等の氾濫により浸水が想定される地域)にわたる流域に関わるあらゆる関係者が協働して水害対策を行う「流域治水」の取組が重要になっています。

### <目的>

流域全体(河川区域、集水域、氾濫域)で対策を総動員し、

- ①雨水を貯留することで河川の氾濫を遅らせ、避難する時間を少しでも稼ぐ。
- ②取組全体を通して防災意識の向上を図り、住民の確実な避難行動に結びつける。

### <取組事例>

河川整備・河川監視の強化、防災学習、避難訓練、雨水貯留タンク、田んぼダムなど

#### 流域治水の3本柱

- ①河川氾濫をできるだけ防ぐ、減らすための対策  
ダム・河川の整備、雨水貯留など
- ②被害対象を減らす対策  
家屋の移転、土地利用規制など
- ③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策  
情報発信、避難体制など



画像出典：「流域治水カワナビ HP」

# ③ 避難時の備え

## ③-1 地元住民の取組内容

### □ 避難訓練の実施

各地区において年1～2回の避難訓練、防災学習を実施しています。炊き出し訓練やダンボールベッド等の防災用具の使用方法を確認して、いざという時に備えています。

### □ 地区間の連携

#### (若葉台地区)

高台にあり、浸水リスクが少ないという地域特性を活かし、他地区の避難者を受け入れ

#### (面影、米里地区)

地区境界にとらわれず、近い小学校に避難するよう両地区で調整し、住民目線での避難計画を策定

### □ 各地区の取組状況の紹介

面影地区



若葉台地区



美保南地区



米里地区



倉田地区



国府地区



美保地区



### □ 食料、防災用具の備蓄

各地区は、防災倉庫に食料、毛布、簡易ベッド、ライト等の防災用具を備蓄し、災害時の避難所運営に備えています。定期的に備蓄品を点検し、いざという時に備えています。



美保南地区の備蓄状況

### <各地区との意見交換を踏まえたメッセージ>

- 災害時において、特に初動期は公助(行政による支援)に限界があり、自助(自分で身を守ること)と共助(地域で助け合うこと)が重要です。
- 自分自身や家族、地域の人を守るため、家庭での備蓄や避難所の確認、地域の防災訓練に積極的に参加するなど、日頃から防災活動に取り組みましょう。



## ③-2 日頃からできること

### □ 地域のハザードや避難場所等の確認

- ・市町村では、浸水想定区域等を示したハザードマップや避難所を公表しています。
- ・災害時に落ち着いて行動できるよう、自宅や職場・学校等の災害リスクや近くの避難所、避難所までのルートを確認しておきましょう。



### □ 非常持出品の準備

災害に備えて、最低3日分(推奨 1週間分)の食料、飲料水、携帯トイレ・簡易トイレ、トイレットペーパー等の備蓄、非常持ち出し品(救急箱、懐中電灯、ラジオ、乾電池等)の準備をしましょう。また、普段の生活で使う食料などを、もしもの場合に備えて多めに買って置き、ストックされたもののうち、古いものから順番に使い、その使ったものから買い足すことで、常に新しいものが備蓄されていく、ローリングストックも活用しながら、備蓄に取り組みましょう。

#### 持ち出し品リスト



持ち出しチェックリスト			
<b>☑ 水</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 飲料水(ミネラルウォーター、スポーツ飲料等)</li> <li>● 給水袋(給水車から水をもらうため)</li> </ul>	<b>☑ 食料品</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● レトルト食品</li> <li>● 缶詰</li> <li>● 菓子類(ビスケット、チョコレート)</li> <li>● 栄養補助食品</li> <li>● スティックタイプの粉ミルク</li> </ul>	<b>☑ 調理器具</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 缶切り</li> <li>● はさみ</li> <li>● ナイフ</li> <li>● 食品用ラップ(お皿に巻いて洗い物を濡らします。保温や応急手当にも)</li> <li>● アルミホイル</li> <li>● 簡易食器類</li> <li>● ほ乳瓶</li> </ul>	<b>☑ 清潔品</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 歯ブラシ</li> <li>● 簡易トイレ</li> <li>● トイレットペーパー</li> <li>● ビニール袋</li> <li>● 除菌ウェットティッシュ</li> <li>● 紙おむつ</li> </ul>
<b>☑ 薬・救急用品</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● くすり</li> <li>● ばんそうこう</li> <li>● 包帯</li> <li>● マスク</li> </ul>	<b>☑ 情報確認手段</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 携帯電話</li> <li>● スマートフォン充電器</li> <li>● 予備バッテリー</li> <li>● 携帯ラジオ</li> </ul>	<b>☑ 日用品</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 使い捨てカイロ</li> <li>● ティッシュ</li> <li>● 新聞紙</li> <li>● 懐中電灯</li> <li>● 乾電池</li> <li>● マッチ</li> <li>● ライター</li> <li>● 敷物・レジャーシート</li> <li>● 軍手か手袋</li> <li>● ビニール袋</li> <li>● 毛布</li> <li>● ブランケット</li> </ul>	<b>☑ 衣類等</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● タオル</li> <li>● 着替え(下着を含む)</li> <li>● 予備の眼鏡</li> <li>● コンタクトレンズ</li> <li>● 雨具(レインコート、長靴など)</li> <li>● スリッパ</li> </ul>
<b>☑ 筆記用具</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 筆記用具</li> <li>● メモ帳</li> <li>● 家族の写真(はぐれた時の確認用)</li> <li>● 緊急時の家族、親戚、知人の連絡先</li> <li>● 地図</li> </ul>	<b>☑ 貴重品・書類</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 現金(小銭含む)</li> <li>● 車や家の予備鍵</li> <li>● 旅行の口座番号</li> <li>● 生命保険契約番号など</li> <li>● 健康保険証</li> <li>● 身分証明書(運転免許証、パスポートなど)</li> <li>● 印鑑、母子健康手帳</li> <li>● 年金手帳</li> </ul>		

**ローリングストックとは**

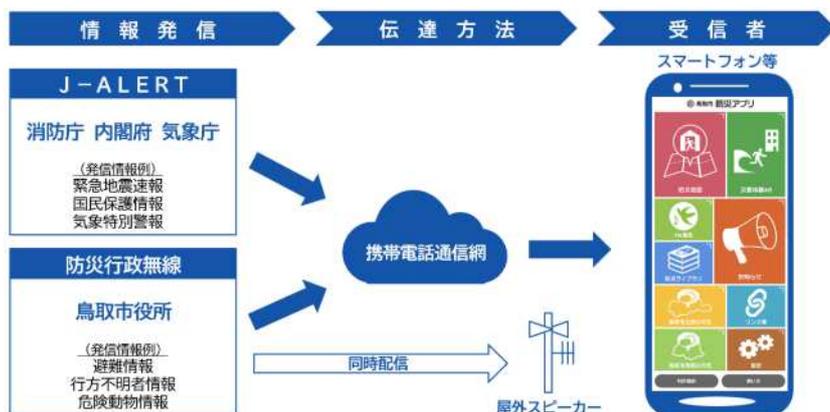
普段から少し多めに食料などを買っておき、使った分だけ新しく買い足して常に一定量を家に備蓄しておくこと。

※最低3日分(できれば1週間分)の備蓄をお願いします。  
詳しくは県のウェブサイトへ。  
<https://www.pref.tottori.lg.jp/Item/84956.htm>

### □ 緊急情報の収集

災害発生時には鳥取市は「鳥取市防災アプリ」、防災ラジオ等で緊急情報を発信しています。

出典:鳥取市危機管理課ホームページ



※製品イメージ写真: 約100(高さ)×150(幅)×46(奥行き)mm



防災アプリの概要

防災ラジオの概要

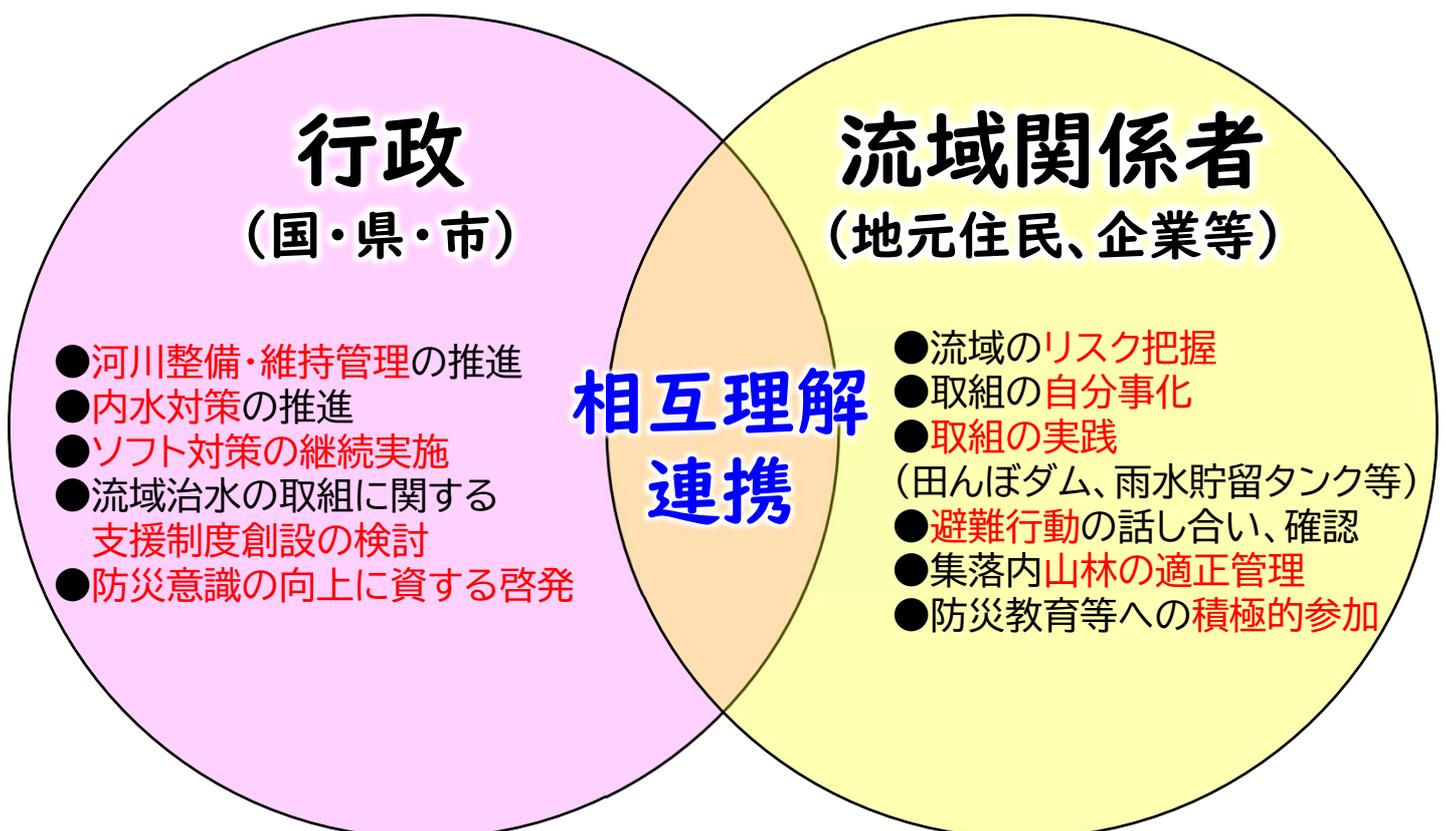


## ④ これから目指す姿(ビジョン)

### □協議会からのメッセージ

- 河川整備を含め、これまで蓄積されたノウハウ(田んぼダム、浸水深表示板設置、防災教育、雨水貯留タンクの設置等)や適用可能な支援制度の活用により、「浸水被害軽減」「防災意識の向上」「流域関係者の相互理解、連携」等のこれまでの取組の効果が着実に現れています。
- 今後の水害発生に備え、安全・安心な地域づくりを実現するため、これらの取組を継続的に実施しつつ、流域のあらゆる関係者が同じ方向を向き、もう一歩ずつ取組を前に進めることが重要です。
- まずは、関係者全員が「自分事」として問題を捉え、それぞれの立場を尊重して自分のできることから少しずつ着実に実施していきましょう。

### □目指す(ビジョン)



## □取組内容の例示

取組内容の例示を参考にし、**自分のできることから少しずつ着実に実践**していきましょう。

### 目標設定のある取組

- 雨水貯留タンク試行設置の取組拡大(行政、流域関係者)**  
(令和6年度) 5基 → (令和12年度) 28基
- 流水監視システムの構築(行政)**  
令和9年度の運用開始を目指す。
- 意見交換会の継続実施(行政、流域関係者)**  
年1回以上、各地区住民・行政の意見交換を行う。
- 避難訓練等の実施(流域関係者)**  
年1回以上、避難訓練や防災学習を行う

### 継続的に実施する取組

#### 行政(国・県・市)

- 河川整備・維持管理の推進**  
→河川改修等のハード対策を優先順位をつけながら着実に進めていく。  
→適切な維持管理を行い、河道掘削等の維持管理を行う。
- 内水対策の推進**  
→ポンプ場の効率的な運用、下水道等の整備による内水氾濫対策を着実に進めていく。
- ソフト対策の継続実施**  
→監視体制強化等のソフト対策をハード対策とあわせて実施する。
- 田んぼダムの取組拡大(行政、流域関係者)**  
理解醸成や取組への不安解消を目的とした研修を行う。
- 流域治水の取組に関する支援制度創設の検討**  
→流域治水関係者の雨水貯留対策を支援するため、費用補助等の支援制度の創設を行政関係者が連携して検討する。
- 防災意識の向上に資する啓発**  
→小学校等への防災学習を継続実施する。  
→広報誌等に流域治水に関する取組内容を掲載し、周知を図る。  
→避難訓練の実施を支援する。  
→流域治水ビジョンの周知、横展開を行う。

#### 流域関係者 (地元住民、企業等)

- 流域のリスク把握**  
→流域の歴史、浸水被害発生状況等を知り、居住地域のリスクを把握する。
- 取組の自分事化・実践**  
(田んぼダム、雨水貯留タンク等)  
→それぞれの立場を尊重しつつ、問題を「自分事」として捉え、取組可能な取組を考え、実践する。
- 避難行動の話し合い、確認**  
→「避難スイッチ」に関する住民同士の話し合いを行う。  
→避難場所、要支援者を把握する。  
→各地区の特性を活かした流域内相互避難の検討を行う。  
→自主防災組織の維持に努める。
- 集落内山林の適正管理**  
→保水力維持のため、自己所有山林の適正な管理に努める。
- 防災教育等への積極的参加**  
→行政が実施する防災学習、避難訓練に積極的に参加する。  
→自治会単位で防災学習、避難訓練を開催する。

## ⑤ あとがき

本ビジョンの改訂に当たり、大路川流域各地区のみなさまには、協議会や各地区との意見交換会に参加していただき、ありがとうございました。

地区のみなさまからは、令和5年台風7号時の避難状況、地区特有の地形地質、雨水貯留のアイデアなどなど、様々な御意見をいただきました。

一つ一つの御意見は、その地区に暮らしているからこそその経験や知識によるものであり、大変貴重なものばかりでした。

流域治水の取組は、一朝一夕で成果ができるものではなく、継続することが大切です。このため、本ビジョンの策定(改訂)は、ゴールではなく、スタートと言えます。

今後も、協議会や意見交換会で、みなさまと対話を重ねながら、「できることから少しずつ」、一緒になって、流域治水の取組を推進していきたいと考えています。

最後になりましたが、改訂において、避難訓練等の写真を提供していただきました公民館ならびに各データを提供していただきました企業・行政機関のみなさまには、この場を借りて感謝申し上げます。

### (事務局)

鳥取県県土整備部河川港湾局 河川課





# 大 路 川 流 域 治 水 ビ ジ ヨ ン

～ 地域のみなんで取り組む「流域治水」～

## 【資料編】

# 目次(資料編)

## I 概要

- I-1 大路川流域治水協議会の概要……………P11
- I-2 協議会での意見交換の経緯……………P12

## II 大路川流域の概要、成り立ち

- II-1 大路川流域の概要……………P13
- II-2 大路川流域の歴史……………P14
- II-3 大路川流域の変遷……………P15
- II-4 土地利用状況の変遷……………P16

## III 治水上の課題(リスク)

- III-1 主要洪水の被害状況……………P17

## IV これまでの取組内容

- IV-1 河川整備計画……………P18
- IV-2 ハード対策(河川改修)の進捗状況……………P19
- IV-3 ソフト対策の推進……………P20,21
- IV-4 適切な維持管理の実施……………P22
- IV-5 その他の河川管理者の取組……………P23
- IV-6 地元と連携した取組、広報……………P24
- IV-7 雨水貯留タンクの取組拡大にむけて……………P25
- IV-8 田んぼダムの取組拡大にむけて……………P26,27

## V 流域治水の取組の効果(浸水想定シミュレーション)

…P28～30

# I 概要

## I-1 大路川流域治水協議会の概要

### 【名称】

大路川流域治水協議会

### 【設立年】

令和3年5月18日(第1回協議会実施日)

### 【構成員】

大路川流域に関係する8地区(美保、美保南、倉田、面影、米里、津ノ井、若葉台、国府)各地区代表者1～3名程度、鳥取市関係課、鳥取県関係課



### 【設立経緯】

- 近年の気候変動による災害激甚化を踏まえ、全国的に流域治水への転換が図られる中、本県では令和元年東日本台風での大規模災害を契機に有識者・関係行政機関で構成する「水防対策検討会」(主にハード対策)と「防災避難対策検討会」(主にソフト対策)を設置。
- その提言において、中長期的課題として「流域治水」が挙げられたことから、本県でも流域治水の取組を進めることとし、関係者(住民、関係機関)とモデル地区での取組内容を議論するため、本協議会を設立。
- モデル地区は「治水懇談会」での住民との対話、浸水深表示板設置等の実績を踏まえ、大路川流域を選定。
- 本協議会では、各地区での意見交換会を開催し、関係者の意見を丁寧に聴取しながら、ハード・ソフト双方を総合的に検討。

## I-2 協議会での意見交換の経緯(1/2)

本協議会では、「各地区住民との意見交換」・「代表者を対象とした協議会」を定期的  
に開催し、丁寧に意見を聞きながら、あらゆる関係者と連携して流域治水の取組の方向  
性を議論してきました。

### 【令和2年度】

- 11月～：鳥取市自治連合会、大路川流域地区会長へ取組趣旨等について説明
- 2月：地区会長(8地区)との意見交換会

### 【令和3年度】

- 5月：第1回協議会開催(取組主旨、事例紹介)
- 4月～：各地区、学校で意見交換会・防災教育を実施

#### 【協議会・意見交換会でいただいた主な意見】

- 精神論としては、雨水貯留対策(雨水タンク、田んぼダム等)の意義を理解できる。
- 対策の効果(どれくらい雨水を貯留でき、どれくらい被害が軽減されるのか)
- 具体的に、どのようなやり方で対策を実施したらよいか。
- 下流域の方々と上流域の方々とでは意見に相違があった。  
(下流域の意見)上流域では、少しでも雨水を貯留してほしい。  
(上流域の意見)下流域では、まず水路の土砂撤去等自分でできることをしてほしい。

2月：第2回協議会開催(雨水貯留対策の効果の例などを示し意見交換、効果算定方法の途中報告)

#### 【協議会でいただいた主な意見】

- 地域住民にとってイメージしやすい雨で計算してほしい。
- 雑ばくなシミュレーションではなく、具体的に対策効果を示してほしい。
- 田んぼダムについては、農家の方々が「畔の損傷」や「稲の生育への支障」を懸念している。
- ため池貯留や調整池については、土砂撤去・堤の補強をすれば雨水を多く貯められる。
- 雨が降った際の連絡体制をしっかりと整えてほしい。

# I-2 協議会での意見交換の経緯(2/2)

## 【令和4年度】

5月～：雨水貯留対策の効果を示すため、浸水想定シミュレーションを実施

## 【令和5年度】

～12月：雨水貯留対策の効果を示すため、浸水想定シミュレーションを実施

＜シミュレーション結果概要＞ ※シミュレーション結果の詳細はP20～22参照。

- ①対策を実施した近くで効果発現されると示されたことから、各地区が身近なところの対策を「自分事」として考えて取組を進めることが重要。
- ②効果の大きい対策は「田んぼダム」「校庭・公園貯留」「雨水貯留タンク」「ため池貯留」の順であった。
- ③河川水位の顕著な低下は確認できなかったが、流量の減少は確認できた。
- ④清水川と山白川の水位・流量を比較すると、山白川のほうが若干余裕があり、流量配分検討の余地がある。

12月～：各地区との意見交換会(シミュレーション結果報告、今後の方向性)

### 【意見交換会でいただいた主な意見】

- 浸水想定シミュレーション結果について、住民の理解を得た。
- 「田んぼダム」の堰板展示や農業団体への説明による農家への理解促進を図るべき。
- 「田んぼダム」は、豪雨時に堰板調整が困難なので、結果として一面が水没して効果がないのでは。
- 耕作放棄地を「田んぼダム」として活用すれば効果があるのではないか。
- 「田んぼダム」に係る交付金事務の事務簡素化の要望があった。
- 「雨水貯留タンク」に係る補助等の支援制度創設の要望があった。
- 山の保水力は治水効果にもつながるので、山林の管理も徹底するよう行政も取り組むべき。
- ビジョンには避難場所提供等を含めて「各地区ができる取組」を記載してほしい。
- 千代川、大路川の河道掘削を推進すべき。

3月：第3回協議会開催(ビジョン案の提示、意見交換)

### 【意見交換会でいただいた主な意見】

- 雨水貯留タンク設置等に係る行政支援(助成制度)をしっかりと検討してほしい。
- ビジョン策定後も防災学習や協議会等を継続させ、周知を行うべき。全県展開を行うべき。
- 流域関係者(住民、農家、企業等)の取組内容の例示を立場に応じて細分化したほうがよい。
- 山林の保水力維持のための適正管理についてビジョンに追加すべきである。

3月：「大路川流域治水ビジョン」策定

## 【令和6年度】

12月：第4回協議会開催(令和6年度の取組状況、今後の進め方、意見交換)

### 【意見交換会でいただいた主な意見】

- 田んぼダムの効果をわかりやすく示してほしい。(例：25mプール●杯分の貯留効果など)
- 雨水貯留タンクの試行設置は良いことだが、少量ずつやってもなかなか広がらないので、予算をしっかりと確保すべき。防災や生活用水の観点からも必要。
- 雨水貯留タンクの取組を普及させるためには助成制度が必要である。
- 雨水貯留タンクの試行設置はいつまでに何をするのか。ゴールを示すべきではないのか。
- 雨水貯留タンクの広報は新築住宅への設置が有効なので、広報活動を工夫すること。
- 広報は若い人から高齢者まで、広く知ってもらうためにはSNSなどを活用することも有効。
- ビジョンには、立場毎の取組内容が箇条書きされているが、具体的な時間軸が明示されていないので目標がわかりにくい。改訂版のビジョンには、目標を明示してほしい。

1月～：各地区との意見交換会(地元の取組ヒアリング)

### 【意見交換会でいただいた主な意見】

- 各地区の避難訓練、防災学習の実施状況をヒアリング
- 流域治水通信のネーミングがわかりにくい。一般の方でもわかる内容になるよう工夫すべき。
- 田んぼダムを実施する時の不安を解消するような説明会をしてほしい。
- 行政職員は避難所からの質問に対応できる様最低限の知識は共有しておくべき。

3月：第5回協議会開催(地元取組共有、ビジョン更新案提示、意見交換)

3月：「大路川流域治水ビジョン」第1回改訂

# Ⅱ 大路川流域の概要、成り立ち

流域の歴史(概要、成り立ち)を知ること、河川に愛着を持ち、関心を高めると同時にそのリスクを把握し、防災意識の向上が期待されます。

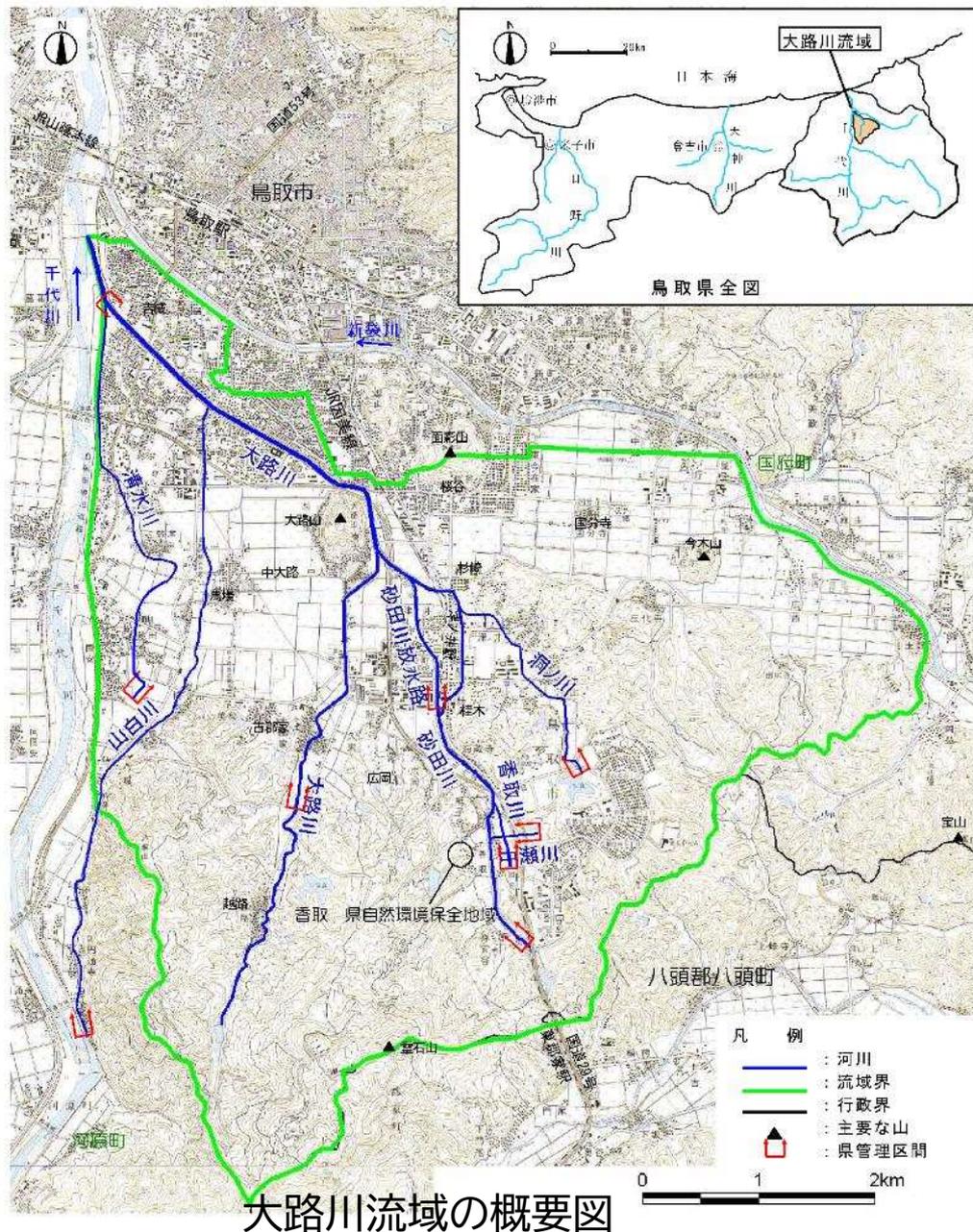
## Ⅱ-1 大路川流域の概要

大路川は、鳥取市越路地先に源を発し、山地から丘陵地帯を流下し、古郡家地先より平野部に入り、大路山の東側で砂田川と合流し、大路山の麓をまわりこむようにして流向を西に転じ、吉成地先で千代川に合流します。

また、大路川は鳥取市の既成市街地の南側にあつて、西を千代川、北を袋川、南から東にかけては河原町、八頭郡八頭町、国府町に連なる山地、丘陵に囲まれた、流域面積31.8km<sup>2</sup>、幹川流路延長7.8kmを有する一級河川です。

流域の地形は、南は鳥取市と八頭町との境界を形成している霊石山(標高334m)が位置し、東は扇ノ山(標高1,310m)から延びる連山に囲まれています。

流域の形状は、南部の山地地帯と北部の低平地に大きく二分され、その流域内には鳥取市のみが存在しています。



## II-2 大路川流域の歴史

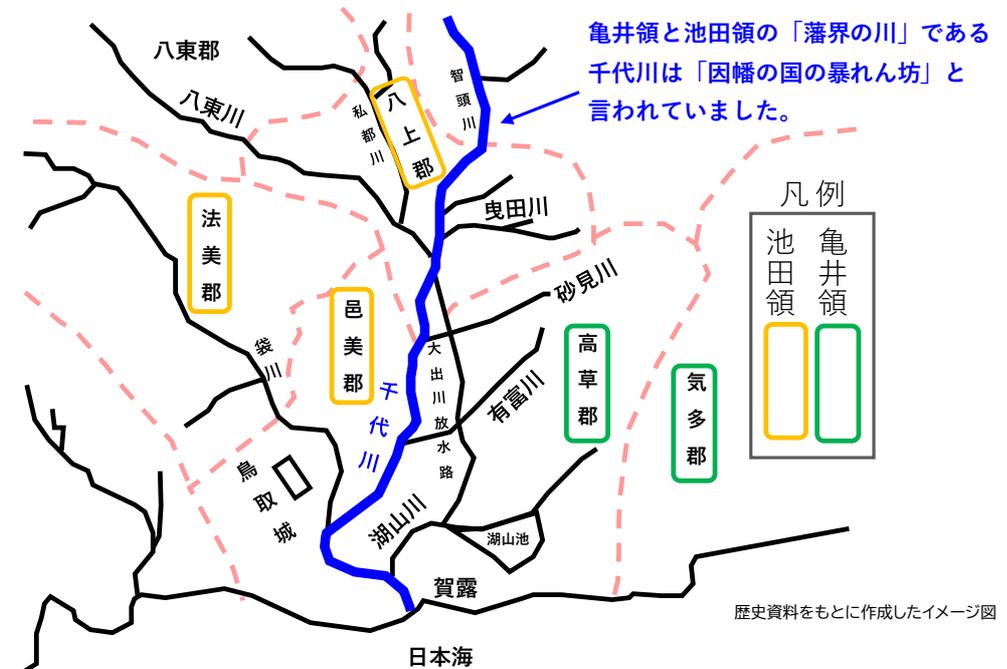
### □ 戦国時代以前（17世紀より前）

現在の鳥取市街地付近は、集団農耕に不適な低湿地であったため開発は行われず、大規模な治水事業も実施されていませんでした。

### □ 江戸時代～明治維新

千代川は、鳥取(池田)藩と鹿野(亀井)藩の『藩界の川』でしたが、大洪水が頻繁に起って荒れ狂うため『因幡の国の暴れん坊』と言われていました。

両藩は、自国の安全を図るために資力を傾けた堤防工事を実施し、その形骸は明治・大正期まで残されていました。近代以降の河川改修でその多くが失われましたが、一部は低水護岸等として現在も機能しています。



### □ 大正期から昭和初期（工業の飛躍的な発展近代化）

明治期は、政府・県の財政が厳しく河川事業の推進を行うことができませんでした。千代川の本格的な治水事業は、鳥取中心市街地の洪水被害軽減を目的として、大正12年に行徳における計画高水流量を3,000m<sup>3</sup>/sとした改修計画を策定したことから始まりました。

大正15年より千代川下流の捷水路工事(ショートカット)や、袋川の付替工事(現在の新袋川の誕生)、築堤等を実施し、これにより、鳥取市街地の洪水被害は大幅に軽減されました。



大路川の状況(大正15年)



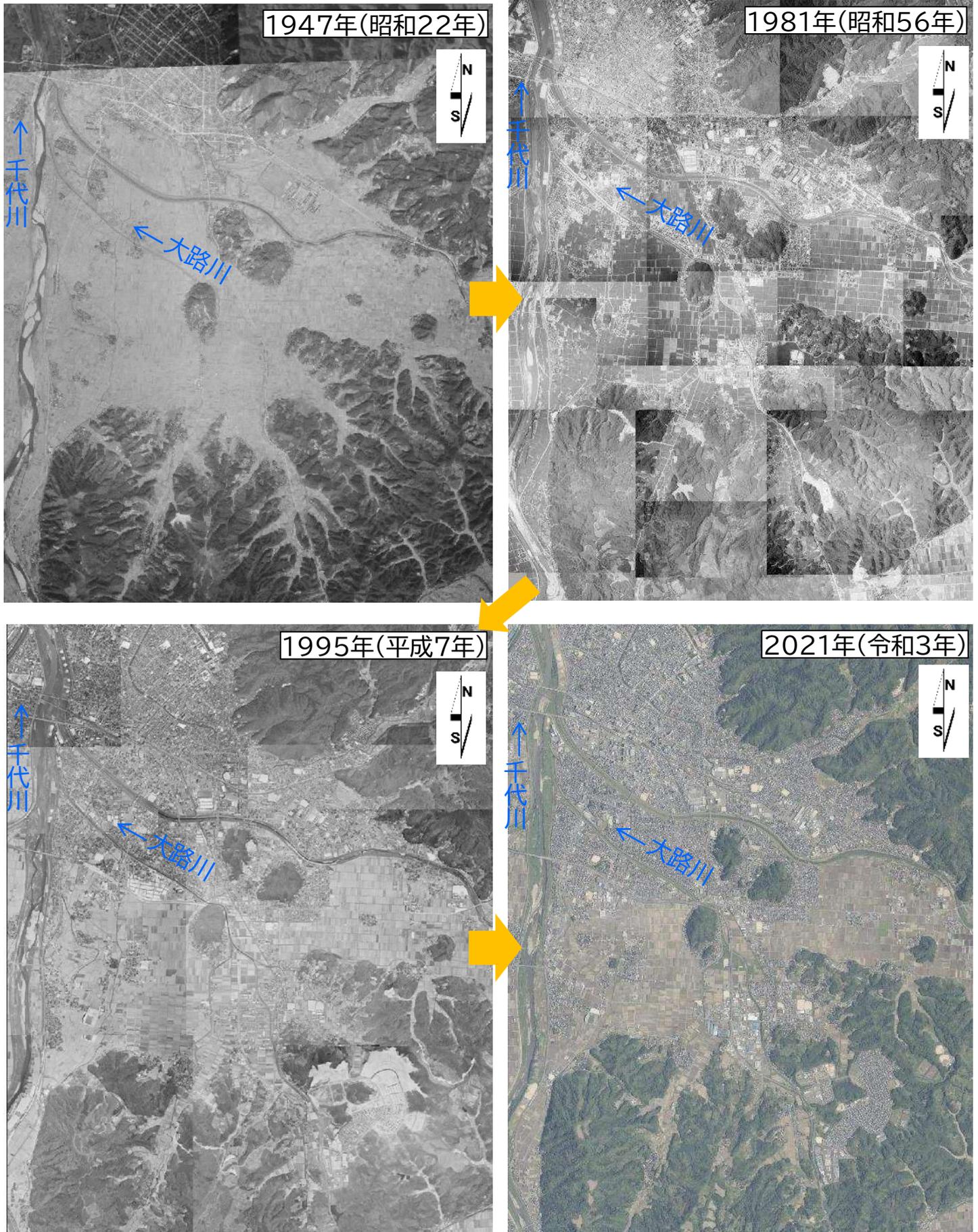
大路川流域の治水事業

※1 出典:【鳥取河川国道事務所】「千代川水系河川整備計画」  
 ※2 出典:鳥取河川国道事務所編集『千代川史』(鳥取県立図書館所蔵)

## II-3 大路川流域の変遷

### □ 航空写真で見る大路川流域の変遷

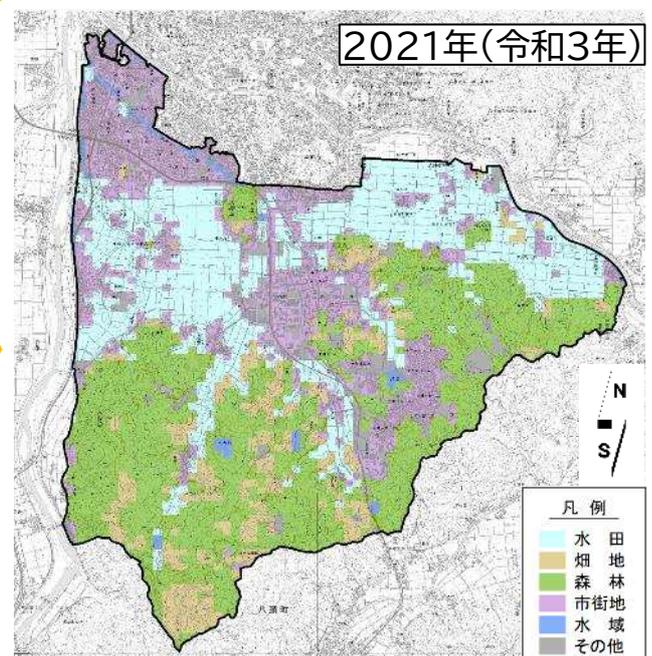
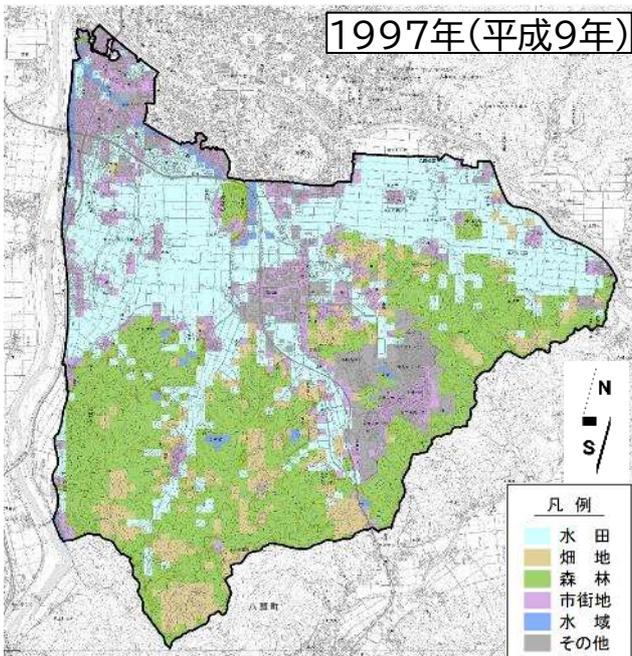
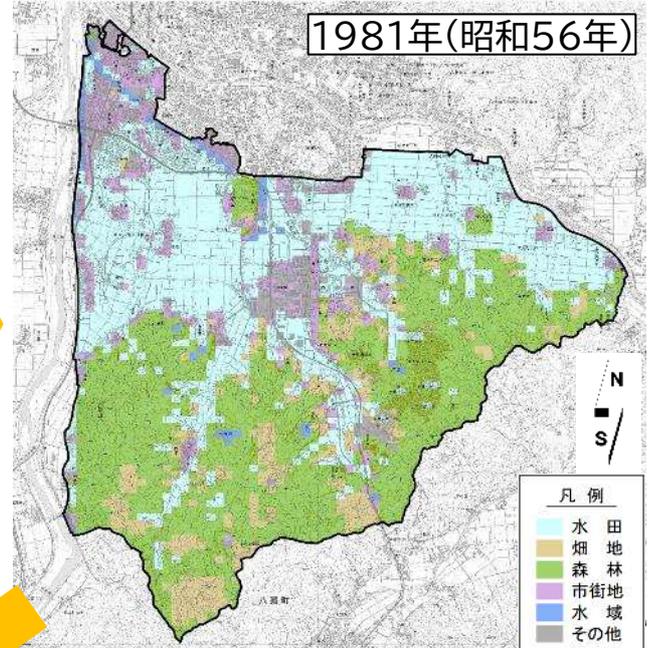
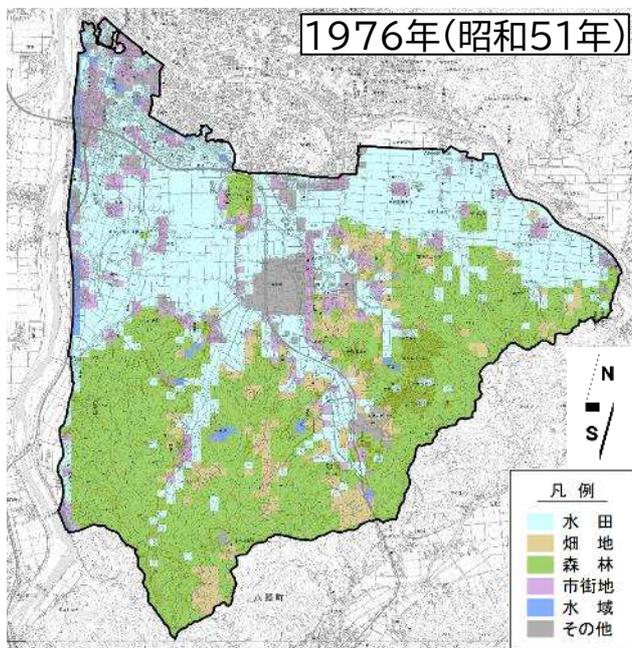
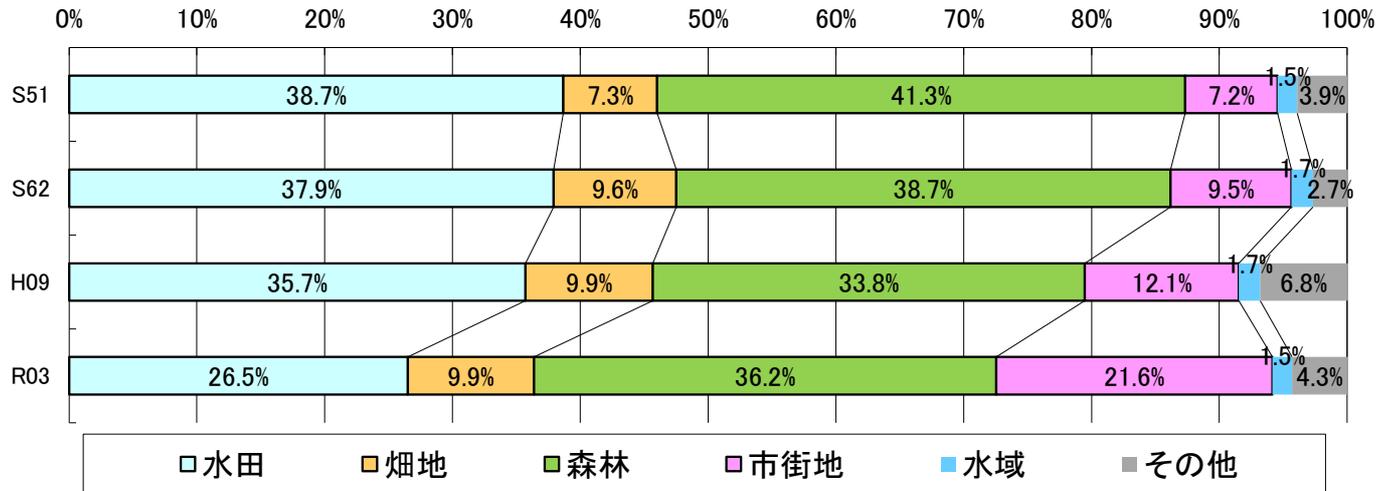
大路川流域では、平成年代より、鳥取市の中心市街地に近い大路川下流部や「津ノ井ニュータウン」等で市街化が進んでいます。



## Ⅱ-4 土地利用状況の変遷

### □ 大路川流域の土地利用の変遷

大路川流域の土地利用は、平成9年頃以降、市街地の増加とともに、水田の割合が減少しており、近年(令和3年)では昭和51年の約3倍の市街化率となっています。

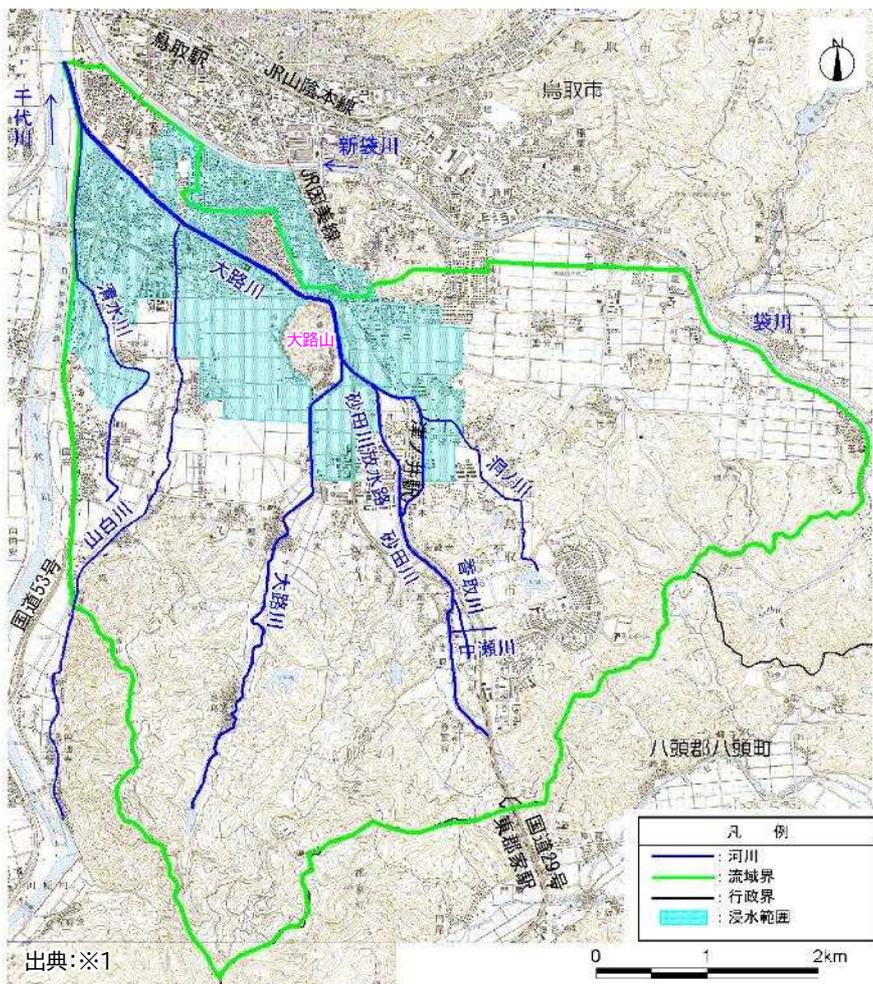


# Ⅲ 治水上の課題(リスク)

## Ⅲ-1 主要洪水の被害状況

大路川流域では、戦後より河川改修が行われてきましたが、昭和51年9月台風17号(床上浸水112戸・床下浸水253戸)、昭和54年10月台風20号(床上浸水329戸・床下浸水218戸)において極めて甚大な水害が発生しました。

なかでも大路山付近より下流は、低平地であるとともに千代川の背水の影響区間となっているため、千代川の水位上昇に伴う内水被害が発生しています。



昭和54年10月洪水(写真:吉成地先)

※1 出典「千代川水系(大路川ブロック)河川整備計画」【鳥取県】



平成25年9月洪水(写真:吉成地先)



平成30年7月洪水(写真:吉成地先)

# IV これまでの取組内容

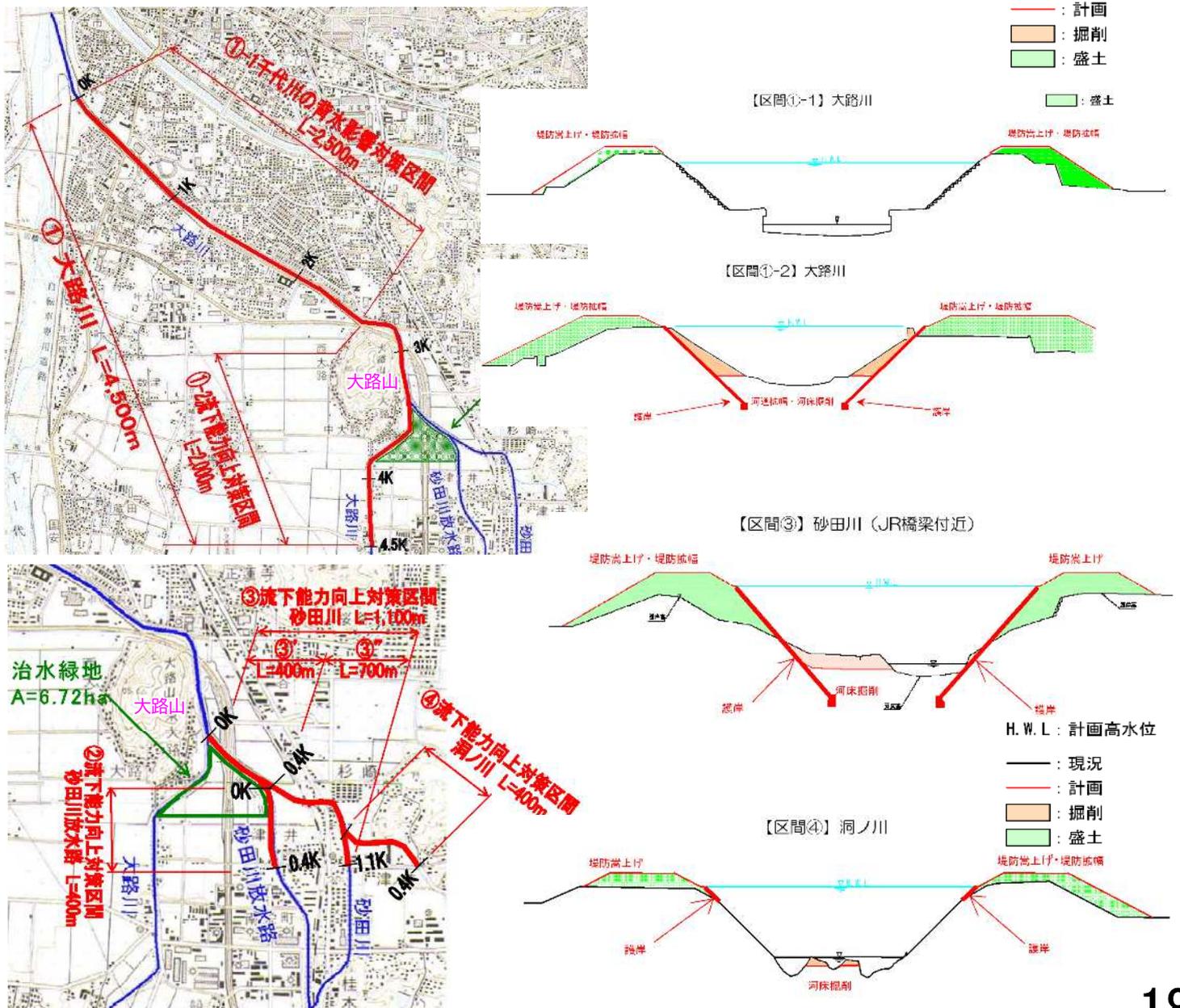
## IV-1 河川整備計画

大路川流域では、水害を契機として昭和57年に改修計画を策定し、中下流域の大路川、砂田川、砂田川放水路において堤防拡幅や護岸などの河川改修、遊水地整備に着手するなど家屋への浸水被害が発生した地域の治水安全度の向上を図り、上流域では、津ノ井地区の市街地開発に対応するため洞ノ川の河川改修も行われました。

一方、内水対策として、大路山付近より下流域に西大路排水機場や洗井川排水機場を整備しました。また大路川河口部では、直轄事業により清水川排水機場の整備や合流点の付替事業が行われました。

現在でも、「千代川水系(大路川ブロック)河川整備計画」に基づき、大路川、砂田川放水路、砂田川、洞ノ川において河川改修が進められていますが、堤防高や堤防幅が不足している区間や河床に土砂が堆積している区間があり、近年(平成25年9月洪水、平成29年9月洪水、平成30年7月洪水、令和3年7月洪水)の洪水においても、一部浸水被害が発生している状況にあるため、今後も治水対策を継続して行う必要があります。

### 【平面図、横断図】



# IV-2 ハード対策(河川改修)の進捗状況

## □ハード対策(河川整備)

- 県民生活の安定と向上に資するため、浸水常襲河川においては、集中投資により整備を推進し、早期効果発現を目指して浸水被害が生じないように、**河川整備による災害の未然防止**を図っています。
- **大路川は**、浸水実績のある市街地を流れる河川であり、優先順位が高いことから、堤防・排水機場整備を集中的に実施し、**下流域では計画規模(1/50確率雨量:238mm/日)の河川整備が完了**しています。
- しかし、河川整備は**多額の費用と膨大な時間を要する**ことから、鳥取県が管理する河川の整備率は47.2%にとどまっているのが現状であり、**優先順位をつけながら、河川整備を進めています**。
- ただし、近年は**気候変動に伴う豪雨が多発**しており、河川整備の想定(計画規模)を超える豪雨の場合、**整備完了区間でも浸水が発生**することを認識し、**ソフト対策(避難等)もハード対策とあわせて実施**する必要があります。

### 河川改修の現況

(令和6年4月1日現在)

水系	要改修延長(km)	改修済延長(km)	整備率	左のうち直轄管理区間			県管理区間		
				要改修延長(km)	改修済延長(km)	整備率	要改修延長(km)	改修済延長(km)	整備率
1級水系	819.7	407.9	49.8%	128.7	98.5	76.5%	691.2	309.4	44.8%
千代川	387.5	210.4	54.3%	37.9	27.9	73.6%	349.8	182.5	52.2%
天神川	144.3	67.2	46.6%	35.2	32.7	92.9%	109.1	34.5	31.6%
日野川	237.1	95.1	40.1%	24.3	16.5	67.9%	212.8	78.6	36.9%
斐伊川	50.8	35.2	69.3%	31.3	21.4	68.4%	19.5	13.8	70.8%
2級水系	313.7	164.7	52.5%	-	-	-	314.3	164.7	52.4%
県合計	1133.4	572.6	50.5%	128.7	98.5	76.5%	1005.5	474.1	47.2%

※直轄管理区間については、R5.3時点

### 大路川堤防整備状況



【県河川課HP】  
河川整備の効果を  
紹介しています。



 ①清水川排水機場 運転開始年月: 昭和51年8月 ポンプ能力: 4.6m <sup>3</sup> /s (R3増設)	 ②吉成ポンプ場 運転開始年月: 昭和63年4月 ポンプ能力: 6.06m <sup>3</sup> /s (R4増設)	 ③宮長ポンプ場 運転開始年月: 平成12年6月 ポンプ能力: 4.53m <sup>3</sup> /s (H27増設)	 ④山白川排水機場 運転開始年月: 平成29年6月 ポンプ能力: 4.0m <sup>3</sup> /s (H29新設)	 ⑤的場ポンプ場 運転開始年月: 平成7年4月 ポンプ能力: 3.67m <sup>3</sup> /s (R3増設)	 ⑥西大路排水機場 運転開始年月: 昭和57年6月 ポンプ能力: 4.7m <sup>3</sup> /s (R4増設)
---	---	--	--	--	---



【凡例】  
●: 浸水深表示板設置箇所

【凡例】  
令和5年度まで: 黒線  
今後実施予定: 赤線

県管理  
鳥取市管理

 ⑦東大路ポンプ場(No.1) 運転開始年月: 平成21年4月 ポンプ能力: 0.2m <sup>3</sup> /s	 ⑧洗井川排水機場 運転開始年月: 平成8年3月 ポンプ能力: 5.0m <sup>3</sup> /s	 ⑨東大路ポンプ場(No.2) 運転開始年月: 平成20年8月 ポンプ能力: 0.2m <sup>3</sup> /s	 ⑩倉田排水機場 運転開始年月: 平成17年 ポンプ能力: 2.1m <sup>3</sup> /s (R2増設)
--	---	--	--

# IV-3 ソフト対策の推進

## □ソフト対策①（浸水深表示板設置）

「ハザードマップの見える化」による水害意識の向上・防災情報の更なる周知徹底を行うため、電柱や公共施設に浸水深表示板を設置しています。

身近な場所における河川氾濫時の様子をイメージして災害に備えましょう。



浸水深表示板の設置状況

## □ソフト対策②（監視カメラ、水位計）

異常気象時の河川水位の状況を把握するため、**監視カメラ、水位計を設置**し、水防体制を整えています。これらの情報は県HPで公開しています。

詳細はこちら→



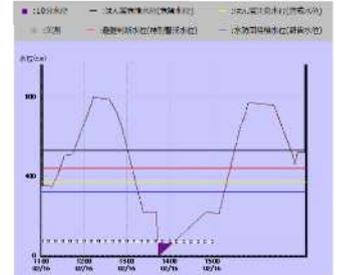
(設置基数:全県)R7.2時点

- 監視カメラ 175基
- 水位計 71基
- 危機管理型水位計 (簡易な装置:超音波) 103基

監視カメラ画像



水位計画像



## □ソフト対策③（防災学習、出前講座）

小学校等への**防災学習**、地元住民への**出前講座**等を通じて、河川増水時のリスクや対策を伝えることで、地域住民の**防災意識の向上**を図っています。

また、“**誰一人取り残さないこと**”を目的に、専門家のアドバイスを受けながら、わかりやすい**避難スイッチ**(避難するタイミング)や**安全な場所を地域と一緒に検討**しています。



防災学習(美保南小)の状況



「なごみ苑」防災学習会の状況

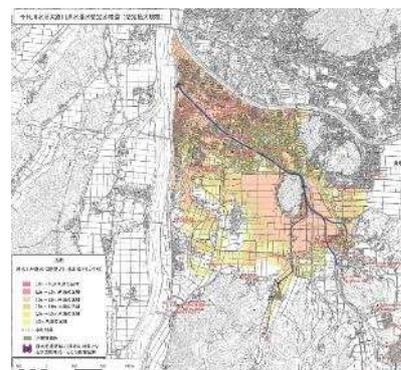


ワークショップ(南大覚寺)の状況

## □ソフト対策④（浸水想定図作成）【1/2】

氾濫した際に社会経済に重大な影響を及ぼす河川を水位周知河川、洪水予報河川(鳥取県管理河川では20河川)として指定し、**想定される最大規模降雨によって氾濫が想定される区域を公表**しています。

⇒この区域を考慮して**市町村が洪水ハザードマップを作成、公表**しています。



【河川課HP】  
詳細はこちら↓

浸水想定区域図



鳥取方式リスク図



ハザードマップ



# IV-3 ソフト対策の推進

【県河川課HP】  
 その他河川や  
 詳細資料はこちら  
 をご覧ください。

## □ソフト対策④（浸水想定図作成）【2/2】

### （公表内容）

- ①浸水想定区域②想定される浸水③浸水継続時間
- ④家屋倒壊等氾濫想定区域

※「想定される最大規模降雨」とは想定しうる最大規模の降雨のことで、1000年に1回程度の割合で発生する降雨量を想定しています。

※その他河川については、計画規模(1/50)の浸水想定図を『「鳥取方式」洪水浸水リスク図』として公表しています。

※令和3年水防法改正に伴い、全ての中小河川の浸水想定区域指定が義務付けられたため、現在、「想定される最大規模」の浸水想定区域図作成作業を進めています。(R7公表予定)

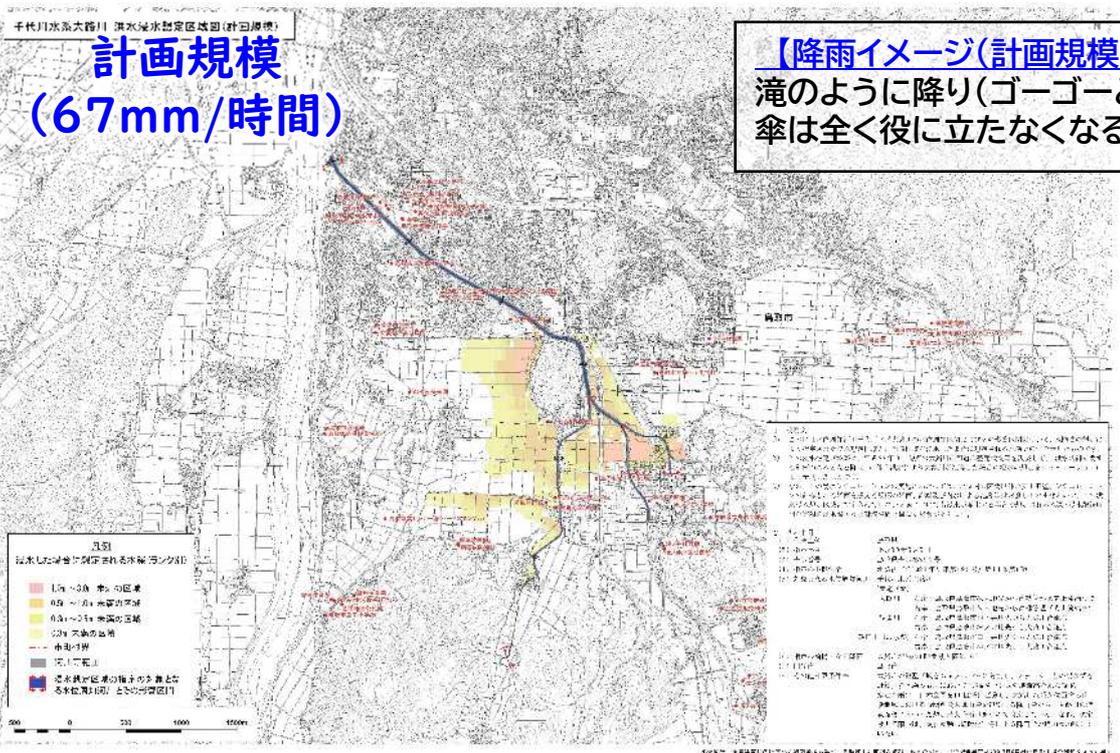
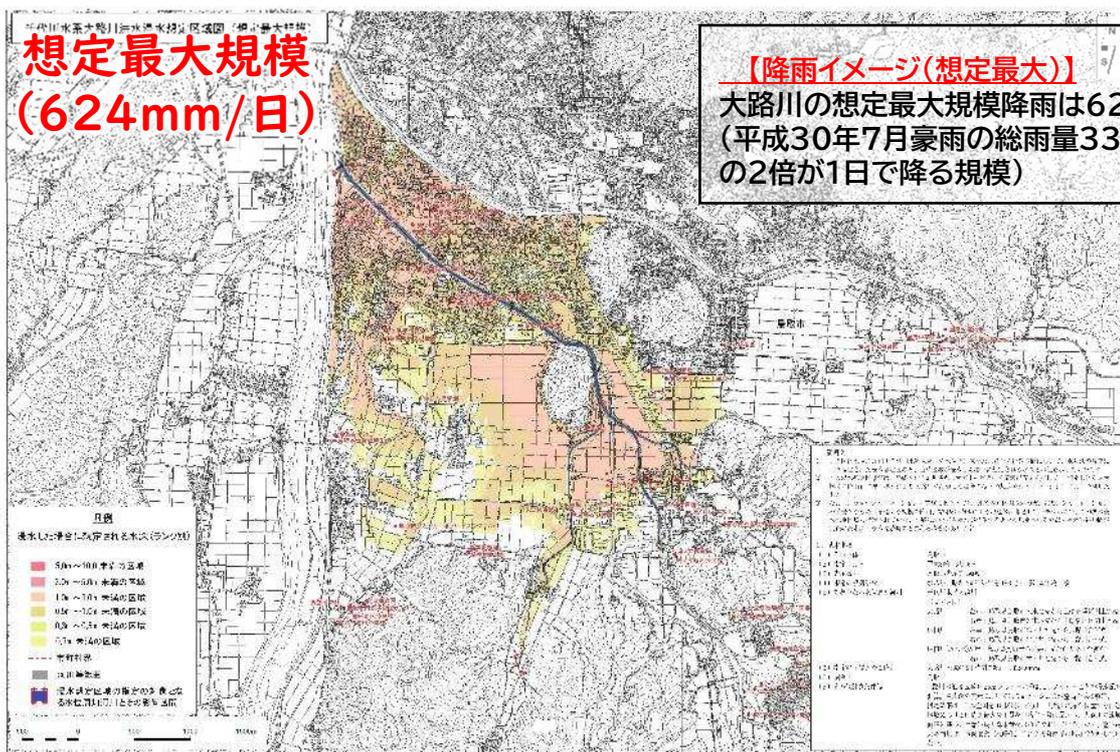
浸水想定区域図



鳥取方式リスク図



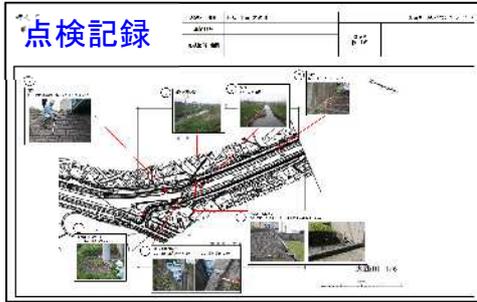
ハザードマップ

# IV-4 適切な維持管理の実施

## □適切な河川の維持管理の実施

- 県管理河川の持続的な河川管理を目的として、「鳥取県河川維持管理計画マスタープラン」を策定し、適切な維持管理を実施しています。
- 点検等により河川管理上の支障となる不具合が発見された場合、樹木伐採・河道掘削・修繕等の適切な対策を講じています。



【県河川課HP】  
マスタープランを  
公開しています。



## □樹木伐採・河道掘削の計画的な実施と効果

土砂堆積等が確認された箇所では計画的に樹木伐採・河道掘削等を実施しています。樹木伐採・河道掘削は治水上の効果が即時発現されますが、樹木の再繁茂や出水による再度の土砂堆積も生じることから、適切に点検を行い優先順位の高い箇所から順次着手しています。

【国】千代川  
(鳥取市古市)

令和6年度  
施工



【県】大路川  
(鳥取市米里)

令和4年度  
施工



【市】前の川  
(鳥取市西大路)

令和6年度  
施工



# IV-5 その他の河川管理者の取組内容

※デジタルトランスフォーメーションの略称で、デジタル技術を活用して業務プロセスを改善し、仕組みそのものを変革し、効率化を図ること。

## □流水管理のDX※の推進（令和4年～）

大馬川流域は、県管理河川（清水川・山白川等）や大小様々な水路が張り巡らされており、操作規則に基づく樋門操作（目視で水位確認）等で分水されています。

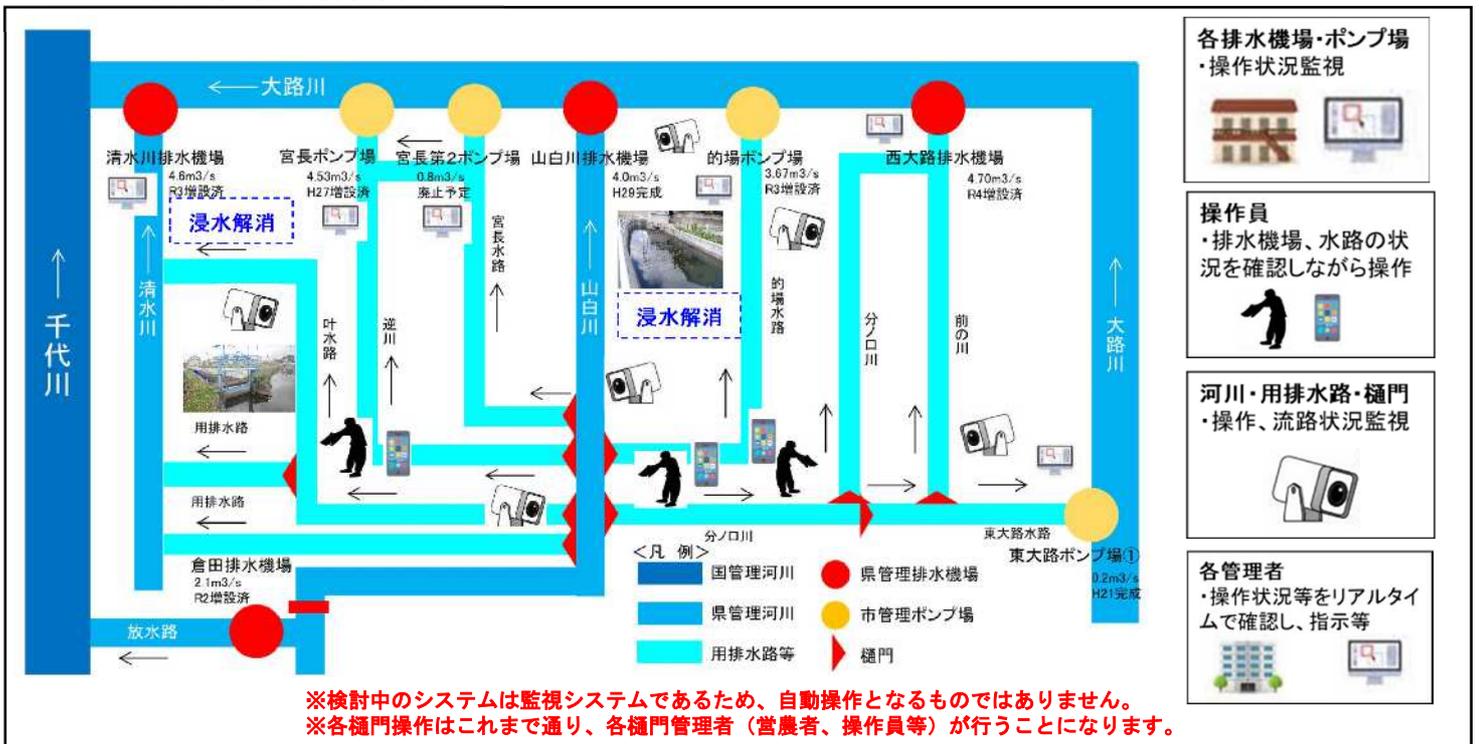
### 【課題】

管理者や現場の操作員は下流側の状況や排水機場の**運転状況が不明**なため、**効果的な操作ができていないか不安**になりながら操作しているのが現状です。

### 【検討中の対策】

- ①排水機場・ポンプ場及び水路、樋門の**遠隔監視システム**を構築し、WEB環境を通じてPC、スマホ等で流域の排水機場や樋門の**運転、操作状況**を見える化
- ②各管理者、操作員は見える化された情報を基に、樋門操作等を行い、排水機場の**運転効率を流域で最適化**

イメージ図（実施内容検討中）



## □樋門の電動化の推進（令和4年～）

樋門操作については、「**重労働作業**」「**操作員の高齢化**」等の課題があることから、県管理の手動式樋門（199基/全238基）のうち、氾濫規模等から優先順位が高い樋門160基について、「**操作員の負担軽減**」「**開閉の迅速化**」による**省力化**を目的として、「**樋門の電動化**」を推進しています。

### 【効果事例】 ⇒ 252秒の時間短縮（労力も軽減!）



【県河川課HP】





# IV-7 雨水貯留タンクの取組拡大に向けて

## □雨水貯留タンクの試行設置（令和5年度～）

雨水貯留タンクを実際に見ていただき、治水上の役割と日頃の花壇への水やりなど使い方を覚えていただくことで、タンクの普及を目指し、公共施設での試行設置を進めています。

### <雨水貯留タンクの試行設置状況>

【設置基数】 6箇所(令和7年3月時点)



しじみの郷(湯梨浜町上浅津の福祉施設)



美保南小学校(鳥取市宮長)



美保南地区公民館(鳥取市叶)

### 【試行設置目標】

モデル地区各小学校1基(計9箇所)、各市町村1基(計19箇所)

水やりにも使えます！

## □雨水貯留以外に期待される効果

- ①簡易水位計の上昇スピードを「避難スイッチ」に活用する。
- ②災害による断水時の防災用水に活用する。
- ③公共施設への設置により防災学習に活用する。  
(防災に関する会話の機会を増やす)
- ④「花壇の水やり」「掃除」等の生活用水に利用する。



## □家庭用タンクの事例

### □設置費用(概算)

#### 大型タンクの場合(500L程度)

材料費 23万円  
設置費 6万円  
合計 29万円

#### 小型(一般家庭用)タンクの場合 (80~300L程度)

材料費 1.5~7.5万円  
設置費 別途(個人設置想定)

### □国土交通省の事例

道路の高架下に  
雨水貯留タンクを設置しました。



国道29号(鳥取市宮長)



(メーカー) 株式会社日盛興産  
(製品名) Rain Harvest  
(容量) 150リットル



美保南地区で自宅に  
自費設置した事例

(メーカー) 株式会社日盛興産  
(製品名) Rain Harvest  
(容量) 150リットル

【県生活環境部からのお知らせ】  
県内の雨水貯留タンクの  
事例を紹介しています！

雨水貯留タンク事例集



# IV-8 田んぼダムの取組拡大に向けて

## □田んぼダムとは

田んぼの落水樹に流出量を抑えるための堰板等を取り付けることで、田んぼに降った雨をゆっくりと排水し、河川等の水位の上昇を抑え、地域の浸水被害リスクを低減するための取組の事です。

「田んぼダム」を通じて地域の農業やその他の治水につながる取組(水路清掃等)、防災・減災への理解が深まり、地域住民や様々な関係者間の繋がりが強化されることで、地域の持続性と協働力の向上が期待されます。



「田んぼダム堰板設置による効果の見える化」や「田んぼダムによる営農への影響」等の検証を行うため、「田んぼダムモデルほ場」を設置(R4~R5)。実証の成果を用いて、各種研修で普及啓発を実施。

### テーマ1 田んぼダムの有無、形状の比較

区画① 田んぼダム実施 区画② 通常区画



排水口の効果状況(左:田んぼダム実施区画、右:通常区画)

### テーマ3 田んぼダムの営農への影響

- 田んぼダム想定区画では豪雨発生を再現し、3回ないし5回湛水を実施。(水深20cm, 2日間)
- 通常管理区画と田んぼダム想定区画で収量及び品質を比較。

区画	田んぼダム実施	降雨再現				
		1回	2回	3回	4回	5回
⑦	通常営農					
⑧	○	○		○		○
⑨	○	○		○		○
⑩	○	○	○	○	○	○
⑪	○	○	○	○	○	○

☆R4は「きぬむすめ」、R5は「コシヒカリ」で調査を実施。  
☆R4、5ともに田んぼダムの実施が農地や水稻の生育収量へ及ぼす影響はなかった。

### テーマ2 落水口形状による比較

☆落水口の形状は色々 ※多面で取組む場合は行政にお問い合わせください

区画	落水口の形状
④	切欠付き落水口
⑤	二重切欠付き落水口
⑥	パイプのみの落水口

区画④ 切欠付き落水口  
区画⑤ 二重切欠付き落水口  
区画⑥ パイプのみ落水口

<田んぼダム取組状況 上段は県全体、下段の( )は大路川流域の取組>

R3年度		R4年度		R5年度		R6年度 見込	
地区数	面積 ha	地区数	面積 ha	地区数	面積 ha	地区数	面積 ha
10	60	17	147	21	270	25	348
(5)	(30)	(5)	(39)	(7)	(77)	(7)	(92)

各種研修会での普及・啓発の効果もあり、取組は拡大中



## IV-8 田んぼダムの取組拡大に向けて

### ～支援制度～

#### □多面的機能支払交付金（共同活動）

- ・農村環境保全活動のうち「水田の貯留機能向上活動」
- ・多面的機能増進を図る活動のうち「防災減災力の強化」
- ・水田の雨水貯留機能の強化の増進

上記メニューで

畔の補修・補強、落水柵の更新、田んぼダム用堰板の作成・設置 等が行えます。

#### 【交付単価イメージ】

活動	Case 1	Case 2	Case 3	Case 4	Case 5
①施設の軽微な補修 	2,000円 /10a ×5/6に減額	2,400円 /10a 基礎単価 (③を1項目)	2,400円 /10a 基礎単価	2,400円 /10a 基礎単価 (③を1項目)	2,400円 /10a 基礎単価
②農村環境保全活動 水田の貯留機能向上活動 					
③多面的機能の増進を図る活動（全7項目） 「防災・減災力の強化」ほか6項 ※広報活動・農的関係人口の拡大は除く			+400円/10a 加算措置 (③を2項目以上)		+400円/10a 加算措置 (③を2項目以上)
④水田の雨水貯留機能の強化（田んぼダム） ※田んぼダムの取組を資源向上(共同)の交付を受ける田面積の1/2以上で取組む場合				+400円/10a 加算措置	+400円/10a 加算措置

※③の加算の対象となる取組項目数は、各組織の直近の活動計画の内容によって異なります。

※農地・水保管理支払の取組を含め5年間以上実施、または長寿命化活動に取組む地区は上記単価に0.75を乗じた額になります。

### ～その他～ 取組に対する不安解消に活用できる制度

#### □多面的機能支払交付金（長寿命化）

流域治水対策を行う防災施設と位置付けた水田の畔の補修・補強

#### □農地耕作条件改善事業

畔の補修・補強、落水柵の更新

#### □しっかり守る農林基盤交付金

落水柵の更新

# V 流域治水の取組の効果 (浸水想定シミュレーション)

## □前提条件

対象洪水：平成30年7月洪水〔長時間の洪水で千代川の水位が上昇(背水)〕  
⇒イメージしやすい降雨を選定した。

実施年度：令和4～5年度

河川：大路川・清水川等の県管理河川

水路：都市下水路、流域内の主要な用・排水路

排水機場：令和4年11月時点の排水能力でポンプ排水(内水排除)  
「外水位(排出先側) > 内水位(集水側)」でポンプ稼働

樋門：県管理河川に設置されている河川管理者が管理する樋門  
「外水位(排出先側) > 内水位(集水側)」で樋門閉鎖(逆流防止)

用水樋門：洪水時の操作なし(全開)

### 【雨水貯留効果を見込む流域対策施設】

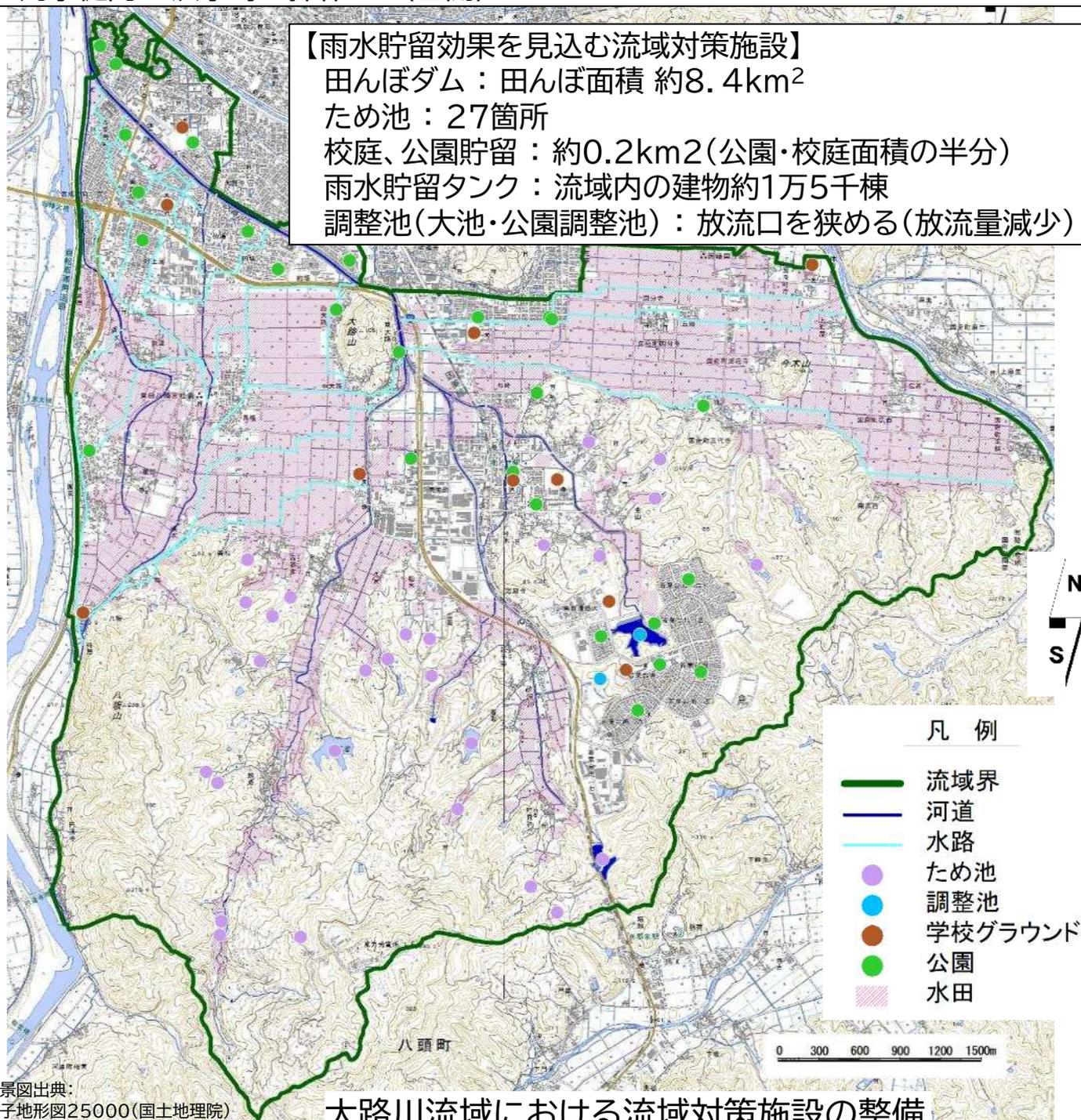
田んぼダム：田んぼ面積 約8.4km<sup>2</sup>

ため池：27箇所

校庭、公園貯留：約0.2km<sup>2</sup>(公園・校庭面積の半分)

雨水貯留タンク：流域内の建物約1万5千棟

調整池(大池・公園調整池)：放流口を狭める(放流量減少)



背景図出典：  
電子地形図25000(国土地理院)

大路川流域における流域対策施設の整備

# □効果を見込む雨水貯留対策

## ①田んぼダム



### <効果>

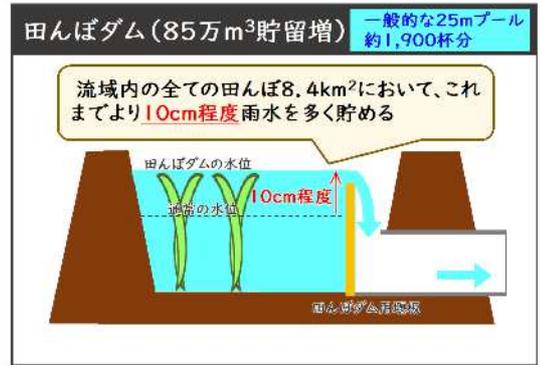
- 流出口を小さくすることで、一時的に田んぼに貯留する

### <取り組み想定>

- 約3km<sup>2</sup>(約3反)に1箇所設置する。

### <シミュレーション結果>

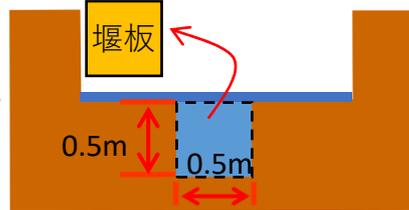
流域内の田んぼ  
約8.4km<sup>2</sup>で  
約**85万m<sup>3</sup>**貯留



## ②ため池貯留(事前放流)



0.5m×0.5mの切り欠きを設置  
(シミュレーション数値)



### スリットからの事前放流状況



### <効果>

- 既設の余水吐に切り欠きをつくり、洪水時の貯留量を増加させる。

### <取り組み想定>

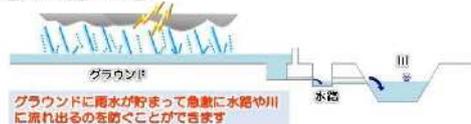
- 洪水時には、堰板を外し、事前放流を実施

### <シミュレーション結果>

流域内の5km<sup>3</sup>以上及び防災重点ため池27箇所  
で約**7.3万m<sup>3</sup>**貯留  
(+**3.4万m<sup>3</sup>**)

## ③校庭貯留・公園貯留

激しい雨のとき



出典:【兵庫県HP】「西宮甲山高校の事例」

### <効果>

- 校庭、公園の外周に小堤を設置し、一時的に雨水を貯留する。

### <取り組み想定>

- 流域内の校庭、公園で水深約30cm程度貯留する。

### <シミュレーション結果>

流域内の校庭、公園  
約0.4km<sup>2</sup>の約半分以上の面積で、  
約**3.7万m<sup>3</sup>**貯留

## ④雨水タンク設置



### <効果>

- 建物の屋根に降った雨を一時的に貯留する。

### <取り組み想定>

- 流域内の建物に約200Lの雨水貯留タンクを設置する。

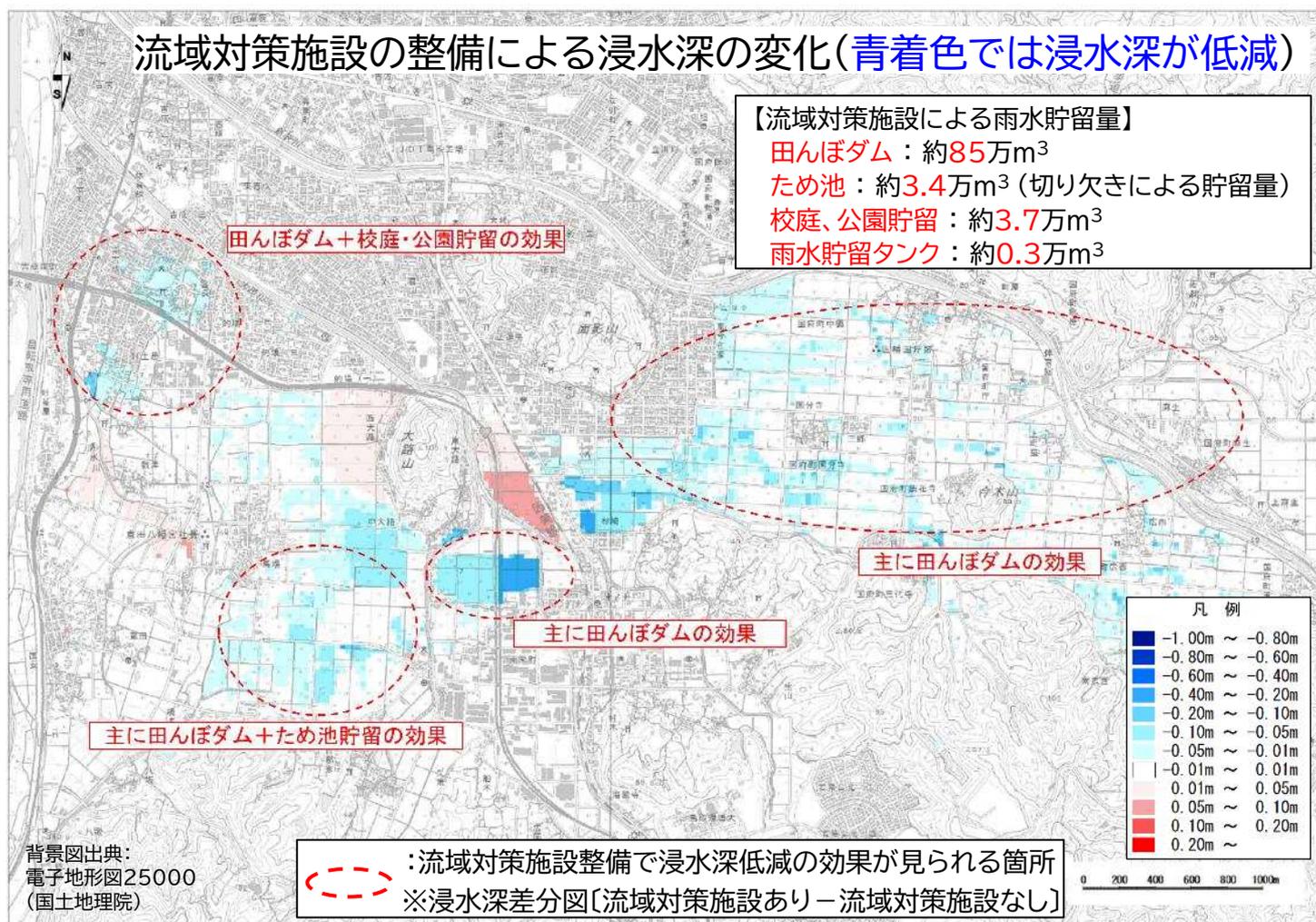
### <シミュレーション結果>

流域内の建物  
約1万5千棟で  
約**0.3万m<sup>3</sup>**貯留

## □シミュレーション結果(考察)

1. 浸水面積や浸水深に対して効果の大きい対策は①田んぼダム②校庭・公園貯留③雨水貯留タンク④ため池貯留の順でした。ただし、浸水面積の減少範囲はわずかでした。
2. 今までは、各対策の効果は下流側で大きく発現すると考えており、「下流域のために上流域で取組を頑張ってもらいたい。」というお願いをしていましたが、今回のシミュレーションでは、**対策を実施した近くで効果発現**されると示されました。
3. 河川水位の**顕著な低下は確認できなかったが、流量の減少は確認できました。**
4. **雨水貯留タンク・校庭貯留は、貯留量が少ないことから降り始めの段階でピークを迎える結果となりました。(大きな貯留効果は確認できませんでした。)**  
※P25のとおり**雨水貯留効果以外の効果も期待**されます。
5. 清水川と山白川の水位、流量を比較すると、**山白川のほうが若干余裕があり、流量配分の検討を行う余地**があります。  
※P23のとおり流水管理の最適化を検討中。

## □シミュレーション結果(図)



## □シミュレーション結果を踏まえて、お願いしたいこと

- 効果の大小はありますが、各対策を実施すれば雨水を少しでも貯蔵できることが確認できました。  
⇒**自分のことから、少しずつ取組を進めていきましょう。**
- 対策を実施した近くで効果発現されると示されました。  
⇒**各地区が身近なところの対策として「自分事」として考えて取組を進めていきましょう。**

## 【改訂履歴】

年月	区分	変更内容	発行元
令和6年3月	策定	-	鳥取県県土整備部 河川港湾局河川課
令和7年3月	改訂	・避難時の備え (地元住民の取組等) を追加 ・河道掘削の事例に 国・市を追加 等	

## 【解説】 背表紙のシンボルマーク

### (概要)

一人でも多くの方々に「流域治水」への理解や親しみをもっていただくことを目的に、国土交通省が作成した流域治水のシンボルとなるロゴマークです。

### (ロゴマークの意味)

- 中央の図形は、多様な地域同士が行政界を超えて流域で連携していくイメージを重なりで表現しています。
- その周囲を囲むような円は、水災害対策により流域を守っていくことを、円の端の手は、このような対策は長年多くの人の手により進められてきたことや、これからも地域同士、住民同士が手を取り合って水災害に立ち向かっていこうという意志を表したものです。
- また、さまざまな水滴の円は、協働して水害に対して備えていく国、自治体、団体、住民を表しています。

### (出典)

国土交通省HP

<https://www.mlit.go.jp/river/kasen/suisin/logo.html>





流域治水



お問い合わせ:鳥取県 県土整備部 河川港湾局 河川課  
住所 〒680-8570 鳥取県鳥取市東町1丁目220  
電話 0857-26-7386 FAX 0857-26-8132  
E-mail [kasen@pref.tottori.lg.jp](mailto:kasen@pref.tottori.lg.jp)  
<https://www.pref.tottori.lg.jp/kasen/>